

平成30年度第2回島根県企業局経営計画評価委員会

日 時 平成31年1月30日(水)

13:30～15:30

場 所 市町村振興センター 大会議室

○委員長

それでは、どうぞよろしく申し上げます。

今、既にさまざまな経営戦略をお聞きしたところでございますし、今日は運営状況と上期の取り組み状況、こういったのを資料を中心にしまして、経営計画の評価委員会を開催したいと思っております。

まず、会議の運営につきまして、確認をさせていただきたいと思っております。本日の会議につきましては、公開の会議にしたいと考えますが、委員の皆さん、よろしいでしょうか。

異議なしということでございます。それでは、次第に従いまして会議を進めます。

議事1、平成30年度各事業の運営状況について、2、企業局経営計画、平成30年度上期の取り組み状況について、あわせて事務局から説明をお願いいたします。

〔事務局説明〕

○委員長

ありがとうございました。丁寧な御説明をしていただきまして、ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明について御意見、御質問等をお願いいたします。

○委員

すみません。

○委員長

どうぞ。

○委員

また後ほど説明されるとは思いますが、小水力発電所の取り組みについて、発電の仕組みと、発電所の建設について詳しく説明していただければと思います。この小水力発電所というのは、溪谷というか、川が流れていたら、そこから一からつくられるのでしょうか、それとも砂防堰堤など既存のものを利用されるのでしょうか。

○企業局

小水力発電所、今つくっておりますけれども、いろんなケースがございます、先ほどおっしゃいましたとおり、川から水をとって、落差を使って発電するというので、そういったところを探しまして、一から取水する施設をつくって水路を引いて下流のほうで発電所をつくって発電するというケースもございますし、既存の例えば砂防堰堤とかを使って、その下流で砂防堰堤の落差を利用して使う、発電する場合もございます。いろんな地点、水量とか地形とか考慮して適したところを探して事業を行っておりますので、おっしゃったいろんなケースがございます。

○委員

わかりました。ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございました。

これは、企業局としていい場所、立地を探してつくられるんですか。それとも、地元のほうから何か要望というか、されるんですか。

○企業局

小水力につきましては、平成26年ごろから県内の砂防堰堤とかそういったところを企業局の職員が現地へ行き、有望地点を探しております。それ以外にももちろん地元のほうから古くなった施設を今後維持管理どうしようかという、そういった御相談もあつたりして、そういうところも含めまして、有望な地点を探しまして、現在その中で実際に事業をやっていけそうなところを事業として進めておる状況でございます。

○委員長

ありがとうございました。

そのほか。どうぞ。

○委員

先ほどの説明の中で個別の取り組みというところですが、広報活動、これにつきましてワーキンググループをつくって検討していくということが掲げられておりますけれども、具体的にこの広報の目的といいますか、例えば企業誘致につながるようなそういった情報をどんどん出していただくか、あるいは森づくり、水源を保全するような活動もやってますよといったようなこと、いろいろあると思うんですけれども、主にこの目的としてはどこら辺に狙いを持ってされていくのか、もしそういった方針のよう

なものがあれば教えていただきたいと思いますが。

○企業局

いろいろと例えば広報材と言われるもの、例えばダムカードとか、先ほどペットボトルもそうですけども、いろんなものをやっております。パンフレットもそうですけど。そもそも、その一つ一つの今ある広報材自体が誰をターゲットにしているのかというところから、そこから点検を全てやっております、非常に事細く実は作業を進めているところがございます。例えばホームページにとりましても、今どきの、どういいますか、動画の活用とか、あるいはSNSとか、もっと弾力的に柔軟にスピーディーにいろんなことができるというか、情報が発信できるという、一般の方からの反応も見やすくするとか、そういうことができないかというところも含めて検討しております。

江津工業団地のパンフレットにつきましては、今までこれつくったことがなくて、企業局の全体のパンフレットはあるんですけど、江津拠点工業団地オリジナルパンフレットは今までつくったことがなくて、それじゃあ、いかんじゃないかということで、初めて一からつくるということで、特に今まで企業局の工業団地のパンフレットで機動的なところだけを紹介しておりましたが、やはり江津もいろいろと江津市の対策として人材育成、確保対策もやっておられまして、UIターン対策とか、そういった江津の魅力といえますか、文化も含めて、進出する企業さんが江津に進出してみたいなど、心をくすぐるような、そういったパンフレットを今、検討しております。伝統、歴史、文化も含めて地元の人材育成、確保対策も含めて、そういったところも訴えるようなパンフレットを今、江津市さん、あるいは企業立地課、商工労働部のほうとも連携して、今間もなく完成する予定でございますので、また完成いたしましたら、皆様方からも御意見いただきたいと思っております。以上でございます。

○委員長

ありがとうございました。

これは、ホームページって島根県のホームページからの中でやるんですね。そうすると何か、ほかのところとの論調みたいなのがありますよね、たんたんと。ありますよね。ここだけ何かぽつと飛び抜けるというようなことが可能なんではないでしょうか。

○企業局

まさしく、その御指摘のと通りの議論をしております、今の県のCMSという仕組

みの中でのホームページですと、非常に限られたことしかできないということで、オリジナルのホームページもちょっと今検討しております、センスのいいものを、そこら辺も今、あと予算の絡みもございますので、そこら辺も民間企業さんがやっておられるようなホームページもちょっと考えないかんじゃないかということで、今検討を進めてるところでございます。

○委員長

わかりました。

そのほか、ございませんでしょうか。じゃあ、お願いします。

○委員

同じく、個別的取り組みで危機管理体制の強化のところ、これ前年もそうだったかもしれませんが、目標値が8で実績が4なんですが、お話をお聞きすると、かなり効果的なものを企業局全体でとか、やられてるようなので、無理にこの数字どおりやる必要はないと思うんですが、ですから来年度の計画どうする、数値をどうするかというところも課題かと思いますが、そもそもこの8という数字を立てた根拠がもしわかれば、今後またこれをどう効果的なものに持っていくかというところの議論にも参考になると思いますので、もしわかればお教えいただければ、お願いします。

○企業局

この8回については、それぞれ東部事務所、それから西部事務所に電気課、水道課ございますので、この電気、水道それぞれ上期、下期、1回なり2回なり、それからあと合同訓練含めて、総合的にに関してこの8回というのを定めております。これが多いのか少ないのかということあると思うんですけど、あんまりやり過ぎると、これはこれで職員の負担がかなり増えて大変でしょうし、かといって、やはり少ないとこれはこれでまたまずい、ですので、ちょうどいいあんばいぐらいかなという具合に思っております。

○委員

わかりました。今後の対応のところにも職員にとって効果のある内容を計画というふうにありますので、また来年度の計画のところでもまた御検討いただければと思います。

○委員長

そのほか。どうぞ。

○委員

よろしくお願ひいたします。

宅地造成事業のことで御質問させていただきます。宅地をつくっていただいて、そこへ企業さん、どうぞ来てくださいということで県の方がしてくださってると思うんですが、その進出企業との情報交換という項目がありますが、これは例えば企業さんが来られた方たちと色々な協議をされる、情報交換されてると思うんですが、労働力についてはどんな感じなんですか。要するに建てたはいいけど、働く人がいなかったら企業さんも来れないじゃないですか。その辺のことも県のほうも一緒になって、例えばハローワークさんとかいろんなところと一緒にあって、そこまで一緒に考えてさし上げられているのかなというところがちょっと気になったので、教えてください。

○企業局

この江津拠点工業団地におきましては、団地連絡協議会という地元の進出した企業様とあと江津市役所さんもお入りおられまして、それと私どもということで、さまざまな団地の中での課題とかいうお話をいただいたりとか、機能的なこととか、看板がわかりにくいとか、いろんなことで対応できることは対応させていただいておりますが、人手不足対応ということにつきましては、まずは人材育成、確保対策につきましては、地元の江津市さんのほうでまず一義的には対応させていただいております、そこら辺で例えば進出した後に、進出することが決まった後にいついつまでに何人欲しいとか何十人欲しいという御要望が企業さんあるわけでございますけれども、それに対して地元の高校とかそういったところに一緒に出向いて、江津市さんのほうが。これだけの人が必要だということなので、間に入らせていただいて動いていただいております。もちろんハローワークさんとか島根県、ふるさと島根定住財団というところがありますが、そういうところとの間に入らせていただくということもしていただいております。ちなみにちょっと後ほど御説明するつもりでしたが、資料5のところをちょっとごらんいただきたいと思いますが、資料5の2枚目のところでございます。資料5の2枚目です。

1月1日にこれ、山陰中央新報さんのほうと協力いただいて、江津市さんとも連携して、こういった、1月1日というのは、県外に出ておられる方が帰ってこられるタイミングでもございまして、そういった方々にUIターン、そういったことを促進するために江津拠点工業団地の魅力、例えば左側のところで「江津がアツい！」で「ニッポンブランドを担う、オンリーワン企業が集まっています！」という、江津工業団地って

非常に技術の高い個性的な企業がそろっておりまして、そういったところで里心を持っていただくといえますか、あと右側のほうで、江津市のUIターン対策です。いろんなことをやっておられます。こういったところもあわせて提案していくということで、先ほど申し上げた江津拠点工業団地のオリジナルパンフ、今作成中だというお話ししましたが、ほぼこういった内容のところを打ち出していくようなところで動いておりまして、進出した企業様が着実に労働力を確保していただくための、あの手この手の手だてを打っているところでございます。以上でございます。

○委員

ありがとうございます。外国人労働力に頼らないといけないということもどんどん言われてるんですけど、本当せっかくなら地元の若い人がそこに定着してもらうのが一番だと思うので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございました。

そのほか、ありませんでしょうか。

それでは、いろいろ御意見出ましたけれども、ちょっと時間の制約がございますので、次の議題に入らせていただきます。

それでは、議事3、各事業の取り組み状況について事務局から説明をお願いします。

〔事務局説明〕

○委員長

ただいまの説明につきまして、委員の皆様から御意見、御質問等お願いします。

どうぞ。

○委員

資料5の江津の工業団地の今後の取り組みなんですけども、現在団地には9社が入居されてまして、いずれも非常にユニークな企業で独自の技術を持っていて、非常に存在感のある企業ばかりなんですけども、これから団地を拡張していく上で一つの企業誘致の手法として一つの、これ提案というか質問なんですけども、従来のように既存の実績のある企業を誘致をしていくというのも非常に大事なことなんですけども、それに加えてもう一つ、これ可能かどうかよくわからんですけども、これから島根で起業をしてみたいといった個人の方が起業する場合にこの団地を使って、例えばそう

いったスタートアップ企業の希望者とか、ベンチャー型の企業とかそういった個人の方が入居をして、そこでいろんな実験をすると。こういった場合は大型の工場とか設備は必要ないので、通信環境さえあればできると、非常に身軽な企業ですが、こういった個人レベルの起業を推進するために、いわばそういった方の賃貸の事務所、賃貸オフィス、いわば起業家のアパート、そういったイメージですけど、そういったものがここでできないかと。これから恐らくこういった方がふえていくと思いますので、そういった方にもやっぱり島根に来てもらうためにそういったスペースを与えると。それで、ただまあこれ団地です。あくまで製造業の工業団地という位置づけですから、そういった賃貸オフィスというのは、制度上難しいということもあるかなと思っていますんですけども、例えば松江のソフトビジネスパークの場合、あそこはもともと製造業というより研究開発型企業の誘致のためにつくったんですが、途中で製造業もオーケーというふうに制度を変えたんですけども、江津の場合それと逆にもともと製造業の団地として出発したわけですけども、もちろん製造業がメインであることにかわりませんけど、それに加えて個人の起業に向けたスペースを与えるという意味でそういった賃貸ですね。これ、土地利用でいくと売却ではなくて、あくまで企業局が土地を所有しながら企業局が建物をつくって、それを賃貸していくというモデルですけど、これが可能かどうかということです。ちょっとそれについてお聞きしたいと思います。

○企業局

御提案いただきまして、ありがとうございます。

ソフトビジネスパークにあるレンタルオフィスのイメージだろうと思うんですけども、このそういったレンタルオフィスのようなところで起業していく、スタートアップしていく建物というのが、こういうちょっと田舎のほうにあったらいいのかなとか、もっと街なかのにぎやかなところにあったらでもいいのかなという気もしますし、そこら辺が、まあ、創業支援のオフィスというのは、都市部でも自治体がやっておられて、むしろ中心部のほうにあるというのが多いかと思っています。したがって、ソフトビジネスパークと同じようなやり方というのがあるのかなのかというのは、それが江津に望ましいのかどうか、よく考えなくちゃいけないことかなと思っています。

今の若い方々がそういう山の中のそういったところで静かさがいいという方もおられるかもしれませんけども、そういったスタートアップ的な施策、江津市自体がベンチャ

一というか、創業するための支援する助成事業を持っておられますので、そういった江津市の支援施策もございますけども、そういったとこで地元の江津市さんともいろいろと意見交換をしていく必要はあるかなと思ってます。ちょっと今の段階ではそういうところでしかお答えできないんですけども、申しわけございません。

○委員長

ありがとうございました。

そのほか。はい、どうぞ。

○委員

資料3の水力発電の関係なんですけど、第1次、第2次、第3次ということで、八戸川の隧道の崩落等ありましたけども、ほぼ順調に工事のほうは進んでるといふふうに、私のほうは認識してるんですけど、そういう考え方でよろしいかということと、あとこちらのほうに経営計画の概要版が載っております、そのときに電気事業のリニューアル事業ということで、124億ぐらいを28年から32年までということで記載してあります。このリニューアル事業自体は26年から始まっておりますので、年度的に変わっておりますので、これの今の資料3のほうを反映したのが、この今の計画版と同じ数字だということなのか、ちょっとその辺をもうちょっと教えていただければというふうに思っております。特に、第1次につきましては、もう決算も終わっているところだというふうに思っております。最近、先ほどありましたように、人手不足、あるいはワーク・ライフ・バランスの影響かどうかちょっとわかりませんが、非常に人件費のほうが上がってきております。そういう意味では将来的に概算事業費のほうも、膨らんでいく可能性があるのかどうか、ちょっとまだわからないところもありますけれども、もしわかる範囲で何かそういうところがありましたら、教えていただければと思います。よろしくお願いします。

○企業局

まず、事業の進捗状況でございますけども、各箇所でも中国電力さんとの連携の関係でそちらの工程に合致することがあったり、あとは地質の関係で若干工期が延びたりということはございましたけども、おおむねそれ以外のところは順調に進んでおりまして、当初、個々に予定しております時期までには完成する見込みでございます。それから事業費につきましては、先ほど委員おっしゃったとおり、経営計画の中では28年度以降のものを載せておりますので、そういう面で若干の差異がございますけども、そ

の後おっしゃったとおり、若干資材の高騰等もありまして、少し事業費が伸びておりますけれども、特別何倍にもふえたとかという状況ではございませんで、大体想定しておる範疇の中で動いております。

○委員長

ありがとうございました。

そうしますと、ほかに御意見、御質問がありませんでしょうか。

ないようでしたら、この際ですので、今後の企業局、業務、運営、全般にわたることで結構でございますので、御意見等ございましたらお願いしたいと思います。

どうぞ。

○委員

全般でもありますし、今御説明いただいた資料5のところにもかかわるところですけども、設備の老朽化とかこれはいろいろ写真がありますけども、目視とかでやられてるというところですけども、今、この分野はかなりIT機器を活用して、ちょうど松江市さんも上下水道のIT化で賞をとられたそうで、かなり最新の設備を導入されているということで、これ前もお話ししたかと思っておりますけども、長期的な投資計画の中でこのIT投資というのを入れていくと、その部分が負担になるところもあるかもしれませんが、また長期的に考えると、かなり効率化できる側面はあるかと思っておりますので、これは全般のことともかかわりますが、その辺のITに限らず最新の技術を使ってこういう部分を効率化していくようなそのお考え方だとか計画だとかがありましたら、お教えいただけると喜びます。よろしく願いいたします。

○企業局

今の水道施設の更新につきましては、特段ITということは、今計画はございませんけれども、一つ施設の更新の中で中央の監視システム、これを今、更新の計画がございまして、そういった中で松江市さんのほうからもいろいろ御意見いただいてまして、そういったところの中で参考にさせてもらう部分はうちのほうでも取り入れたいなというふうに思っております。あと、浄水場の中とか外の管路につきましては、企業局の施設というのは、規模は大きいんですけども、非常に数が少なくて、松江市とかは非常に末端、それこそ各家庭までもう網の目のように配管が走ってるというふうなことはちょっと状況が違うところもございまして、企業局についてはなかなかそこまでは要らないのかなというようなイメージとしては持っておりますけれども、ただ先

ほど言いました中央監視システム等、取り入れる部分は考えていきたいと考えております。

○委員

ありがとうございます。

○委員長

そのほか、よろしゅうございますか。

それでは、御意見ありがとうございます。いろいろ御意見が出ましたが、時間の制約もございますので、少しまとめさせていただきます。

冒頭おっしゃられましたように、自然災害が昨年は非常にたくさんございましたけれども、それと戦いながらといいますか、非常にたくさんの事業を展開していただいております。特に電気事業のほうは、自然災害と非常に関連するところではございますが、その中でリニューアルということ、それから施設管理です。こういったものをしっかりされているということを今日、拝見させていただきました。こういったことが広報につながる、ぜひとも一般の皆様にも広報をしていただきたいと思います。

それから、危機管理の問題が出てきましたし、この危機管理についてはやはり一層努力をしていただきたいと思います。一方では宅地造成事業の拡張をされる、あるいは小水力発電所の新規開発も行っておられるというようなことで、攻めの姿勢も非常に顕著なものが見られたということがございます。そういった意味ではすごく今日の委員会で御説明していただきまして、ありがとうございます。

最後に、飯梨川水道のことについても、今後全国のところで問題になろうかとは思いますが、丁寧にご説明していただきまして、本当にありがとうございます。こういったことも、やはり今後、一般の方々にもまた説明ができるようお願いできればというふうに思っているところでございます。

それでは、企業局におかれましては、委員の御意見について十分に御検討の上、今後の企業局の業務運営に活かしていただきたいと思います。

そろそろ時間も参りましたので、本日の議事を終了したいと思います。委員の皆様方には、議事進行に御協力いただき、ありがとうございました。